

三上人鑽仰特輯號發刊陳言

前 田 聽 瑞

今や、わが宗門は鎮西・記主・勢觀の三上人の大遠忌を遡へ、華頂の彩霞春風に動きて風光淨土に似たる處、闔門の感激と奮躍とを新にし、道俗和合裡に、知恩報恩、念佛報國の誠を竭さんとすることは蓋し無比の白業であらう。

二祖鎮西國師辨阿聖光上人は、宗祖圓光明照大師の嫡統を紹ぎ、異端を斥けて、正宗を傳持し、範を後昆に胎し給へる正宗の大紹者である。知恩院第二世勢觀房源智上人は、宗祖に嚴事すること首尾十有八年、至要の慈訓を請ひて、以て末代淨土の龜鑑たらしめた法城の嚴護者である。三祖記主禪師然阿良忠上人は、二祖鎮西國師の附法として、宗脈三代の法統を嗣ぎ、審に源流を正し、大に師承を光顯し給ひし淨土典範の簡定者である。正宗彌々興り法燈益々明にして、今に至つて人皆その慶を受くるは、洵にこの三上人の學德傳弘の力であると稱してよい。

爰に我等末徒は正宗傳弘の三上人の大遠忌に値ひ、謹で報恩の誠を竭すべく、蚊虻の力を戮せて聊か

